



グリーンポトスニュース

83号：2004年7月

今年は、早くから暑い日が続いております。梅雨が明ければ、本格的な夏です。プールや海、山と、今から楽しみです。夏の体調管理も大切に。そこで、今月の話題は『夏風邪』です。

夏風邪

冬のインフルエンザは、熱も高く、症状が重く、重症化することがありますが、夏風邪は、小児を中心に流行し、症状もあまり重くないことが多いです。咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、手足口病などは代表例です。

咽頭結膜熱は、主として7~8月頃に流行し、患者の年齢は5歳以下が6割程度を占めています。今年は、例年より流行しており、警報が出ているほどです。症状は、発熱と、咽頭炎による咽頭痛、眼の結膜炎などです。これは、3~5日間程度続きます。感染経路は、ウイルスによって汚染されたプールの水を介した結膜への直接の侵入や、タオルを介した感染、それに、咳・くしゃみなどによる飛沫、接触感染によるものです。

ヘルパンギーナは、1~4歳の乳幼児がかかります。発熱とかぜ様の全身症状を伴い、咽頭に赤いリングを持つ小さな水疱があらわれ、それが破れて浅い潰瘍をつくりますが、解熱とともに治ります。糞便から口を介してうつりますから、保育園などで流行します。

手足口病は、小児(半数は2歳以下)に発熱とともに、口の中・手のひら・足の裏に水疱があらわれます。まれに、髄膜炎などを併発することがありますが、基本的には治りやすい病気です。治ってからも、1ヶ月近くは糞便中にウイルスが出ています。

治療法はそれぞれの病気で、違います。熱が出たら、かめざわクリニックに、できるだけ早く受診してください。早めに治療していけば、早く治ります。

残念ながら、予防接種などはないため、自分たちで、気をつけるしかありません。丈夫な身体を作るため、規則正しい生活をして、口からうつる可能性が高い病気ですので、手洗いやうがいを頻繁に行いましょう。

